

お名前 山越 仁一
ご住所 津市
発生時にいた場所 大紀町錦（つき地）
当時の年齢 12 歳（小学校 6 年生）

当時友達 20 人位と遊んでいた。

横に揺れ出し、1 人では立っておれなくて、友達と肩を支え合って地震の揺れが止むのを待った。揺れが止んで自宅へ走った。母から兄と二人で先に逃げるように云われて、町の男の大人の人達が津波が来るから逃げよと云われ、小学校へ急ぎました。途中、せまい路地を通ったが家屋の倒壊などもなく、スムーズに歩けた。

母は布団を取り入れて、雨戸を閉めてから逃げてきたと云っていた。

逃げる途中なにげなく後ろを振り返ると、水煙と土埃が立ち上がる中を大きな船（貨物船？）が海の方から奥の方へ、家の屋根の上を突走のを見ておどろいた。

小学校の裏山に逃げると近所のおじさんが「お前の家の近くの娘 3 人姉妹が歩いて逃げてきたが水が増えて歩けなくなったのか、お前の家に入った」と云っていた。後で聞いたことだが、その 3 人の娘たちが我が家と思われる家から発見されたという。

津波がおさまったとのことで、小学校の教室に入った。その頃から、津波に流されてブルブルふるえる女の人が運ばれて来た。亡くなった人も運ばれてきた。その夜は親子 3 人、床の上にごろ寝した。民家の 90% くらいが流され、64 人が亡くなったと記憶している。津波の後の食事は水につかった米で炊いた臭い、小さいにぎりめしを子どもは一日一個だったと記憶している。

津波のあとの支援ほとんどなかったように思う。後で知った事だが、災害の報道を軍部が押さえたと云う。体験者であっても事実ほとんど知らされていない。